

早来断酒会の活動に表彰状

10月17日に第53回精神保健北海道大会が開催され、早来断酒会の永年の活動が認められ北海道精神保健協会から表彰されました。「飲み始めたら自分の意志では止められなくなり、家族や会社にも迷惑をかけてきた」と振り返る会員の皆さん。昭和60年6月9日に発足以来、早来断酒会はアルコール依存症の方の社会復帰に貢献してきました。町民に限らず、同じ悩みを持つ他市町の人も入会して病を克服中。毎月第2・第4月曜日に保健センターで活動しています。「関心がある方は役場健康福祉課まで連絡してください」と会員の皆さんは呼びかけていました。



自慢の歌を熱唱

追分カラオケ倶楽部が結成されて25周年を迎え、恒例となった歳末助け合いチャリティーカラオケ発表会が12月20日に追分公民館で開催され、地元会員などが自慢の歌を熱唱しました。厚真や栗山など近隣の町からの出演もあり、歌詞に合わせた衣装に着替えマイクを握ります。

歌の合間に舞踊の演技が入り、会場から大きな拍手が送られました。

最後に、地元出身でプロ歌手の正木はじめさんが舞台上で新曲などを歌い、聴衆を魅了しました。



年の瀬に

美味しいプレゼント

24Hチャリティー野球 in ABIR A実行委員会では、年末に子供や高齢者などにケーキやおもちをプレゼントしました。

この実行委員会は、チャリティ事業として昨年8月29日から30日にかけて24時間野球大会を実施しました。その継続として、今回は12月18日に町内5箇所の保育園を訪問し、サンタクロース姿に扮したメンバーが一足早くクリスマスケーキを



園児たちの代表に手渡ししました。ケーキは一箱16人分の大きさもあり、1枚1枚の皿に切り分けられた甘い味の贈り物を園児みんなで美味しく食べました。

また、12月20日には早来町民センターでもちつきを行い、あんこもちやきな粉もちを作りました。使った米の量は60キロ。蒸しあがったもち米を石臼に入れて杵でついていきます。

木とは違い、石で出来た臼は重量感があり、杵を振り下ろす回数が少ないにも関わら

ず、柔らかく伸びのあるもちに仕上がりました。正月用の鏡もちも製作。実行委員やボランティアで協力してくれた方々によって出来上がったものは追分陽光苑や富門華寮など町内の福祉施設等に配られました。

主催した実行委員会代表の小林茂樹さんは、「これからも地域との関わりを深める活動を行なっていきたい」と抱負を語っていました。